

日本語聴解における推測ストラテジーの指導

A GUIDE OF COGNITIVE STRATEGIES IN JAPANESE LISTENING COMPREHENSION

李 曉霞, 大連交通大学
Li Xiaoxia, Dalian Jiaotong University

要 旨

聴解ストラテジーの指導を受けた学生は受けていない学生より、事後テストの点数が高く、内容をよく理解することが Thompson & Rubin の研究からわかっている。聴解ストラテジーの分類方法は研究者により様々であるが、認知、メタ認知、情意という 3 種類が観察されている (O'Malley et al.1989、水田 1996)。中でも、認知ストラテジーの一種である推測ストラテジーの指導がとても重要である。推測ストラテジーにより、学習者の注意を集中させ、聴解内容の難易度を下げ、聴解過程での不安を減らすことができる。推測ストラテジーは学習者の聴解能力を高めるのに重要な役割を果たしている。学習者の聴解を指導する時、絵、選択肢、キーセンテンス、キーワード、文法、発音のテンポ、スピード、アクセント及び語調などの方面から、推測ストラテジーを指導することができる。学習者の推測能力を高めるのに、推測のヒントを提供する、聴解問題を聞き、後続内容を推測、選択、完成させる、会話を完成させるなどの方法が考えられる。本稿では、日本語聴解における推測ストラテジーの指導を提示し、学習者の聴解能力を向上させる効果的な方法を検討したい。

1. はじめに

聴解ストラテジーの指導を受けた学習者は受けていない学習者より事後テストの点数が高く、内容をよく理解する事が Thompson & Rubin の研究からわかっている。水田 (1996) は回想法により日本語母語者 5 人と中国人日本語学習者 10 人に調査をした。上位群の学習者は下位群の学習者と比べ、よりうまく推測ストラテジーを使用していると述べた。すなわち日本語聴解の中で、推測ストラテジーに関する指導は学習者によい学習効果をもたらすことができると考えられる。

2. 推測ストラテジーの役割

上位群の学習者は下位群の学習者よりうまく推測ストラテジーを使用していることから、推測ストラテジーは重要な役割を果たしていることがわかる。推測ストラテジーは日本語聴解の中で以下のような役割を果たしていると考えられる。

(1) 学習者に集中させる。聴解問題を聴く際、内容に対し集中できるかどうか聴解の効果に影響を及ぼす。学習者が推測ストラテジーを理解していれば、問題を聴いている間に以降の内容を推測できる。それにより学習者は聴解の重要な部分だけに集中することが出来る。

(2) 聴解の理解精度を上げる。学習者は聴解問題全ての内容を聴き取れないことがよくある。それにより内容に対する理解の精度が下がる事も多い。そこで推測ストラテジーを導入する事により理解できなかった部分を推測し、さらに学習者の聴解の理解精度を上げる事が容易になる。

(3) 不安要素を軽減する。ここでの不安とは外国語の学習、習得に関わる不安(聴解不安)を指し、学習効果に影響する重大な要因となっている。聴解問題の中に理解できない、あるいは未知の単語、文章等が出てくると学習者は不安になる。しかし推測ストラテジーを活用する事により、既知の情報からそれらの情報を推測する事ができる。聴解問題の中に未知の情報が出たとしても学習者は推測ストラテジーにより自ら推測し、そして補完する事により不安が軽減される。これにより聴解不安という悪影響が軽減されると考える。

3. 推測ストラテジーの指導

聴解問題を通し、学習者に様々な角度から推測ストラテジーにアプローチする手法を指導する。まず、以下に挙げる手法を使い学習者に既知の情報から未知の情報を推測させ、聴解能力を高める。

(1) 絵もしくは選択肢により推測する。

聴解問題を解く際、問題用紙に絵もしくは選択肢があるとそれが推測のよい手がかりとなる。

例えば次のような場合。

- | | |
|------------------|------------|
| 1 アパートの情報誌を買いに行く | 2 不動産屋に行く |
| 3 きぼうのじょうけんを書きだす | 4 住みたい町を歩く |

(日本語能力試験 2010 年 7 月 2 級)

聴解問題が出題されている間にこれらの選択肢を読めば、この問題は「部屋を借りることに関する問題」だということが推測できる。これが理解できれば問題の意図を推測し、聴き取るべき目標及び重要な箇所が見えてくる。稀に聴解問題内に含まれない選択肢が用意されている場合があるが、しかしこれは選択肢にある単語、あるいは文章と同義であり、推測することは可能である。ゆえに学習者には絵や選択肢により推測することを指導することが有効である。

(2) キーセンテンスにより推測する。

ある程度の長文聴解問題であれば、問題中にキーセンテンスが含まれていることが多い。そのキーセンテンスを掴むことにより文章全体の内容を推測することが出来る。通常キーセンテンスは、段落の始めと終わりに出現することが多い。ゆえに段落の始めと終わりが聴き取る際の重要ポイントであり、このキーセンテンスにより推測すると文章をよりよく理解することが出来る。

(3) キーワードにより推測する。

キーワードにより内容を推測するのも良い手法である。会話の中での副詞、接続詞や気持ちを表す言葉などが推測の手がかりとなる。

a)副詞：日本語会話の中には、副詞がよく出てくる。その副詞により後続内容を推測することが出来る。例えば「ちっとも」、「全然」、「決して」また「さっぱり」などの副詞が出てきたら、後続内容は「否定」であると推測できる。

b)接続詞：会話の前後関係を提示する際に接続詞が使われる。これにより会話の内容を推測することが可能である。例えば次のような場合。

A:いらっしやい。さあ、どうぞ。あれ良子さんは？

B:それがね、_____。

①朝電話があって来られないんだって。

②朝電話があって来られるんだって。

会話中の「それが」は相手の期待に沿えず言いよどむのに使う接続詞なので、後に続く内容は①だと推測できるだろう。学校などの授業に於いて、教師は学習者に対し頻出する接続詞をしっかりと把握するよう指導することが求められる。例えば、逆接を表す「が/しかし/けれども/ところが/それなのに」。まとめる時に使う「つまり/すなわち/したがって/要するに」。譲歩を表す「とはいえ/といっても/それでも/それにしても」。原因、理由を表す「だから/したがって/そのため/なぜなら」。補説する時用いる「ただ/ただし/なお/もつとも」などである。

c)気持ちを表す言葉：気持ちを表す言葉によっても後続内容を推測できる。それらを聴く事により後続内容を推測することが可能である。

「どうせ」という言葉を例にとってみる。

A:今度こそ期待してるわ。

B:どうせまた同じことだよ。

「どうせ」は諦めや捨て鉢な気持ちを表しているので、BはAの期待に沿うことが出来ず諦めた、と推測できる。

「そこをなんとか」は、相手にとって無理だと分かっているながらお願いする、やってもらいたいという気持ちが含まれている。

A:これがギリギリの線ですね。

B:そこをなんとか。

これはAがこれ以上の条件では無理だという事を提示しているのに対し、Bが無理だと分かっているながらもそれ以上の条件でお願いしている、と推測される。

「また、そのうちに」は曖昧な応答であり、社交辞令という日本独特の表現といってもよからう。

A:温泉にでも行きましょうよ。

B:また、そのうちにね。

社交辞令というのはその場の雰囲気を変えずにやんわりと断る、または話をうやむやにするという表現である。つまりこの場合BはAと一緒に温泉に行く気はない、またはそれに対して関心が無くどうでもいい、ということが推測される。

特に気持ちを表す表現は学習者にとって非常に難解な問題かと思われる。例えば、「さあ…」、「…はちょっと」、「…はどうも」、「うんん」、「うーん」などである。これらに対して指導者は学習者に対し可能な限りの事例を提示し、可能な限りの繰り返しによる指導が求められる。

(4) 文法により推測する。

聴解問題中に出てくる文法により後続内容を推測することが出来る。例えば次のような場合。

「十分言い聞かせたのに_____。」

①理解していない。

②理解している。

問題文中の「のに」は逆説を表すので後に続く内容は①だと推測できる。この場合、指導者は学習者に対し類似した文法表現を連想させ関連付けるよう指導するのもよい方法である。例えば、「ものの」、「とはいえ」、「にひきかえ」などを連想させることである。

(5)発音のテンポ、スピード、アクセント及び語調により推測する。

発音のテンポ、スピード、アクセント及び語調には話し手の態度や意図が表れる。それらにより話し手がどのような考えを持っているかを推測することが出来る。例えば次のような場合。

A:今度のパーティー、中村さんにも連絡しましょうか？

ア) B:そうだねえ… (話すスピードが遅く、イントネーションが下がる)

イ) B:そうだね。 (話すスピードが速く、イントネーションが上がる)

①今回はいいんじゃないの？

②そうしよう。

話すスピードとイントネーションから ア) =① (不賛成) イ) =② (賛成) と推測することが出来る。

話し手のアクセントが上がるか下がるか、声が明るいか暗いか、またスピードが速いか遅いかなどの情報から意図を推測することが出来る。指導者は、それが長文聴解問題だとしても、慌てずに話し方から得られる情報を解析するための技術を学習者に対し指導すると効果的かと思われる。これによりたとえ長文問題の半分以上が理解できなかったとしても、その話し方から得られる情報を解析、推測し正解を導き出すことが可能になるであろう。例を挙げる。

①コーヒーカップ ②スプーンセット ③ベビー服 ④ワインセット

夫と妻が友達にあげるものについて話しています。二人は何をあげますか。

女:結婚祝い、何にしましょうか。コーヒーカップのセットなんて平凡かなあ。

男:何がいいかなあ。(上の提案に対し自分の意見を表明していない)

女:スプーンセットなんてどうかな。

男:うーん、(考え中。やや否定を込めつつあまり賛成していない) ワインセットなんてどうだい？

女:それは、あなたがほしいものでしょ。(すこしあきれた気持ちで不賛成)

男:いっそ、ベビー服っていうのは？

女:気が早いわよ。(すこしあきれた気持ちを込め、否定の語調) やっぱり、コーヒーカップにしない？

男:よし、わかった。そうしよう。(話すスピードが速く語調もしっかりしている。賛成)

上の会話について、例えば慣用表現の「気が早い」などを含め学習者が完全に理解することは難しいと思われる。しかし指導者はそれぞれの会話後にある括弧内のように解析、推測するよう指導すると学習者は内容の理解度を問わず、それらを使い正解①を導き出すことが出来るだろう。もちろん聴解問題全てを理解するのが理想であるが、それは更なる時間と学習者自身による訓練が必要になるで

あろう。

4. 聴解における推測能力の育成

(1) 推測するためのヒントを提供する。

指導者は推測するためのヒントを提供し、学習者の推測能力を高めるよう指導する必要がある。例えば絵や写真、図表などのビジュアル素材。キーワード、シチュエーション等を提供しそこから得られる情報を解析、推測させる。また、聴解内容と関連のある文章を読ませるなど推測能力を高めることを学習者の目標とし指導する。

(2) 聴解問題を聴き、後続内容を推測させる。

聴解問題の指導法としてはまず、問題の内容を途中まで聴かせる（この場合の「途中まで」とは学習者のレベルに合わせて後続内容が理解できる範囲内まで、ということである）。その後、学習者に後続内容を推測、発表させる。その際日本語での推測及び発表をさせるのが好ましいが、このトレーニングの要点は「推測する」事なので母国語でも構わない。なぜなら推測するための解析作業自体が重要なので、どの言語で発表しても同じ効果が得られるからである。その後問題の途中から再生し、解答を提示する。その上で推測までに至った経過等をまとめてもらうのも良い手法だろう。

(3) 聴解問題を聴き、後続内容を選択させる。

しかしながら後続内容を推測し、発表するということは学習者にとって非常に難しい問題である。特に推測ストラテジー導入直後の学習者にとってはただの不安要素でしかない。このような場合はあらかじめ後続内容を選択肢として提示した後聴解問題を聴かせる、という方法が有効であろう。この方法であれば複雑な解析能力を必要とせず、難易度も下がるので学習者に自信を持たせるという効果が期待できる。例を挙げてみる。

「新しい商品を開発して、ヒット商品となったものは、50%以上の確率で業界トップを何年も維持するそうです。その後、まねされて似たような商品がいろいろ売り出されるんですが_____。」

①すぐ、別の商品が売り上げ一位になるそうです。

②なかなか追い抜けないものらしいんですね。

問題の内容「まねされて似たような商品がいろいろ売り出されるんですが」から、ほかの商品が本商品に劣っていると推測できるだろう。学習者に二つの選択肢の中からロジックに合っている②を選ばせることができる。

もう一例を見てみよう。「選挙運動中は頭をぺこぺこ下げていた候補者が、当選するや否や_____。」

①態度を180度変えてしまった。

②相変わらず謙虚な態度を見せている。

文中の「や否や」は「同時に、または引き続いて、事が行われるさま」を表す。「～すると同時に。～するとすぐに」の意味である。ゆえに、後ろに続く内容は謙虚からまったく違う態度に変わったと推定できる。つまり選択肢①が合っている。この方法は学生に推測し述べさせるより、難易度が下がり、学習者に自信を

持たせるという効果が期待できるだろう。

(4) 聴解問題を聴き、後続内容を完成させる。

問題を聴き、後続内容の完成を目指す指導法は単語、文法、キーセンテンス等推測に必要な情報を解析するトータルバランス能力を身に着ける手法である。しかし、学習者の習熟度に合わせ、問題の難易度を調整すべきである。指導者には学習者の能力を見極め解析、推測させる箇所を注意深く設定することが求められる。

(5) 聴解問題を聴き、会話を完成させる。

聴解問題の多数は会話形式をとる。その会話内容を推測することは推測ストラテジーを指導する良い方法といえる。例えば次のような場合。

A: はい、桜美術館です。 B: _____。

A: 午前9時から午後4時までです。 B: _____。

A: 休館日は毎週月曜日です。 B: _____。

A: いいえ、予約は要りません。

指導者は上記 A の部分を聴かせ B を推測させる。会話の流れから B の部分は「そちらは何時から何時までですか」、「休みは何曜日ですか」及び「予約はいりますか」と推測させることができるだろう。そして、学習者の能力に合わせあらかじめ選択肢を用意するのも方法の一つである。

5. おわりに

推測ストラテジーの指導において、指導者は学習者に対し文章の流れ、語調などから解析、推測させるための能力を引き出すことが重要である。例えば未知の単語、文章等が出題された場合でも指導者はすぐに解答を提示するのではなく、既に知りえている情報から推測させるといった手法をとり、特に推測ストラテジー導入直後の学習者の不安を取り除くといった指導法がよかろう。そして、一つのストラテジーではなく、ノートテイキングなど多種類のストラテジーを指導する必要がある。指導者はこの事を常に念頭に置き学習者と向き合う努力が必要だろう。

参考文献

国際交流基金 (2008) 『聞くことを教える』 ひつじ書房

佐佐木仁子, 松本紀子 (2012) 『新日本語能力試験考前対策 N2 聴解』 世界图书出版公司

渋川晶, 島田めぐみ, 伊能裕晃 (2010) 『聴くトレーニング<聴解・聴読解>応用編』 スリーエーネットワーク

寺村秀夫 (1987) 「聴き取りにおける予測能力と文法知識」『日本語学』6, 明治書院

水田澄子 (1996) 「独話聞き取りにみられる問題処理のストラテジー」『世界の日本語教育』6, 49-64.

- 横山紀子 (2004) 「第2言語における聴解ストラテジー研究:概観と今後の展望」
『言語文化と日本語教育』 11,184-201.
- 王鹏飞,魏高修 (2007) 『国際日本語能力テスト2級聴解』 东华大学出版社
- 尹松 (2002) 「第二言語・外国語教育における聴解指導法研究の動向」 『言語文化と日本語教育』 5,279-288.
- Thompson,J Rubin.(1996). Can strategy instruction improve listening comprehension?Foreign Language Annals3,331-342.
- 杉山充(2005) 「聴解授業のあり方についてー聴解ストラテジートレーニングの観点からー」 『早稲田大学日本語教育実践研究』 2,176.
- O'Malley,J.M.,Chamot,A.U. & Kupper,L.(1989).listening comprehension strategies in second language acquisition.Applied Linguistics10(4),418-437.